

# Ngraph 備忘録

岩熊 (2014 年 10 月 9 日)

**初期ファイル:** `_Ngraph.ngp` ファイルは、岩熊の使いやすいサイズに変更してある。元のファイルは `_Ngraph-orig.ngp` である。

**line:** 線幅は、最も大事なものは 80, 次に 40。ほとんど重要でないのは 20。基本的に 80 と 40。種類は、大事なのが実線 `solid`, 次が破線 (短い方) `short dash`, 最後が点線 `dot` とする。比較線には一点鎖線 `dot dash` でもいい。当然だが、色はモノクロ限定。ただし、スライドに含めたいときは自由に色を選んでもいいが、コントラストの関係から、「水色」「緑色」「黄色」の使用は禁止とし、「赤」「青」「マゼンタ」のみとする。

**mark:** 線幅は 20, サイズは 300。

**線種:** データをプロットした線の一点鎖線等は `tex` にしても問題無い。

**塗りつぶし mark:** データ順に描画されるため、まず線画を描いたあと、同じデータの `mark` で、水色を含む `mark` を選び、色 1 を黒、色 2 を白にして描くと、マークの下にくる線は消える。同じデータを線で結ぶと同時にマークを描くときはこの方法をとる。

**矢印:** レジェンドの直線で矢印にするとき、線幅は 20, 矢印は 1200% くらいに拡大しておく。デフォルトの線幅 40 のときは、これもデフォルトの 600% で大丈夫。

**文字列:** レジェンドのテキストの場合、フォントはできるだけ `Times` と明朝を選ぶ。太字なら `TimesBold` とゴシックとし、英字のイタリックとボールドイタリックの場合も `Times` 系で。

**ini ファイル:** `[axis_cX]` と `[axis_cY]` の `gauge` をそれぞれ 2 と 3 に変更。これで内側だけに目盛線が出るようになる。`[axis]` の太さや長さやフォントも変更。元のファイルは `Ngraph-orig.ini` である。

**デフォルト以外の枠をまず選ぶ場合:** X を 3500 から 4000 に変更し、二つの軸の長さを 14000 から 12000 にすると、デフォルトと同じサイズになる。これで 50% 縮小でちょうどいいサイズに。また縦軸の目盛数字・位置合わせ・垂直シフトを 300 に。